

〔様式3〕		指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）		東京都北区立堀船中学校
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画	
1年	・新出漢字だけではなく、小学校で学習した漢字の読み方や書き方について反復練習をしていく必要がある。 ・連用修飾語や敬語についての問題に誤回答が多かった。授業中にも、文章を読む時に被修飾語を間違える生徒もいるので注意していきたい。 ・記述式の問題で、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように文章を書く問題があった。無回答が約30%いたので、全体の構成を考えてメモ書きをしてから文章を書き始める取り組みをしたい。	・漢字テストを実施する。次回の範囲を予告する時に、注意してほしい漢字の書き方や読み方を簡単に説明する。 ・文法の学習の時間だけではなく、作文を書いたり音読する時にも、文節と文節とのつながりを意識させる。 ・全体の構成のメモを作成し、2, 3段落程度の短い文章を書く学習を繰り返す。	・漢字検定の問題を利用し、漢字学習を行う。 ・教科書以外の短い文章を用意し、短い文章の書き方のまとめ方に慣れさせる。また、普段は意識していないテーマについて、知識と興味を持たせる。	
2年	・新出漢字だけではなく、第一学年までに学習した漢字の読み方や書き方について反復練習をしていく必要がある。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題が2問あり、どちらも正解だった生徒は約60%だった。授業中に古文を読んだり、現代仮名遣いに直す問題を練習したりしたが、身に付いていない生徒がいる。 ・二つのものを比べて、表に記入する学習をしているが、今回の調査では、特徴を対比させて記入することがうまくできなかった生徒が約40%いた。	・漢字テストを実施する。次回の範囲を予告する時に、注意してほしい漢字の書き方や読み方を簡単に説明する。 ・歴史的仮名遣いの読み方の原則を復習する。全体で読むだけではなく、一人一人に音読をさせる。 ・全体の構成のメモを作成し、2, 3段落程度の短い文章を書く練習を繰り返す。	・漢字検定の問題を利用し、漢字学習を行う。 ・百人一首やかかるたを通して、歴史的仮名遣いに慣れさせる。 ・教科書以外の短い文章を用意し、短い文章の書き方のまとめ方に慣れさせる。また、普段は意識していないテーマについて、知識と興味を持たせる。	
3年	全般的に授業を静かに受けることができ、書き込む課題にも自力で取り組んでいるが、発言することが少なく課題について話し合うことも苦手に感じられる。集計を見ると特に「発表の内容を聞き取る」の分野が、全国平均から5, 8ポイント、区平均から8, 4ポイントマイナスになっている。また、説明的文章・文学的文章ともに読み取りの問題も正答率が低かった。ただ、記述問題については全般的に全国平均・区平均を上回る得点であった。これは、授業、定期考査、地域発表会などへの取り組みで作文を書く機会が多いためではないかと考える。	基本的な授業の進行は変えられないが、意図して話し合いの機会を増やしていきたいと考える。発表ツールなどを活用して、班での話し合い、検討、発表の活動を行いたい。聞き取りに関しては弁論聞き取りの授業も行ったが、テスト形式の聞き取り問題、複数の意見から結論を出す練習も授業で行ってきたい。作文に関しては、定期考査で公立高校入試と同形式の問題に取り組みさせているので、意見とその根拠をはっきりと分け明示する練習を普段から重ねたい。	文法に関して、用言の活用など1・2年で定着していない内容が見受けられた。復習をしながら一通りおわらうとしている。漢字の書き取りも不正確な部分が見受けられたので、ここまで細かく指摘してきた。前項でも述べたように、ロイロノートを活用して話し合い、検討、発表の機会を設けていきたい。3年間の総まとめ問題集を夏季休業中の課題としたが、これからは問題演習も来年に向けて随時行っていく予定である。	

〔様式3〕		指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）		東京都北区立堀船中学校
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画	
1年	全29問中9問で、校内正答率が目標率を10ポイント以上下回っている。中でも歴史的分野に、時代にかかわらず、定着度の低い問題が散見される。日常の授業は地理的分野と歴史的分野で授業担当を分けて展開している。地理的分野では日常の授業にグループ学習を取り入れ、主体的で協働的な学習の習慣化に努めている。一方で歴史的分野は時間的な制約もあり、講義形式が中心になっている。歴史的分野の課題が続くようならば、時間を割いて改善の手立てを具体的に立てる必要があると考える。	社会的事象を身近に捉えさせる授業展開を意識する。普段の授業では、興味を持って前向きに取り組んでいる生徒が多い。特に地理的分野の学習では、世界の多様性に興味を持っている印象を受け、世界地理であっても身近な社会的事象と捉えることができている生徒がいる。歴史的分野についても同様の捉え方ができるようになれば、課題の克服は見えてくると考える。そのために、教材研究の深化や授業展開の方向性の工夫に力を入れていく。	スパイラル学習の機会を持たせることを意識する。社会科の学習内容は一過的なものであり、意識して復習する機会を持たせないと、放置状態になってしまう。またスパイラルと言っても基礎・基本的な事柄の定着の確認を中心に据えて、普段の授業展開を進めていく。また長期休暇中の課題において、そのような機会を持たせる取り組みを取り入れていく。	
2年	全27問中15問で、校内正答率が目標値を10ポイント以上下回っている。中でも歴史的分野、とりわけ原始・古代の歴史の定着度の低さが際立っている。また、全体的な定着率の低さは1年次の結果も同様であり、それを克服しきれなかった。日常の授業ではグループ学習を取り入れ、主体的な学びや協働的な学習の習慣化に努めているものの、成果につながっていない。また中学校入学当初の昨年度も同様の傾向が見られており、その課題が克服されなかったということである。さらに社会的事象の学習への意欲・関心を高めることが重要であると考え。	社会的事象を身近に捉えさせる授業展開を意識する。日常の授業では、地理的分野の学習では興味を見せる生徒が多く、調査においても定着度が高い傾向が見られる。身近な社会的事象には興味・関心を抱くということであると言える。一般に歴史的分野も近現代史に近づくにつれてその傾向は増していくが、教材研究や授業展開の方向性において、当学年はそのことを強く意識しながら取り組んでいく。	スパイラル学習の機会を持たせることを意識する。社会科の学習内容は一過的なものであり、意識して復習する機会を持たせないと、放置状態になってしまう。またスパイラルと言っても基礎・基本的な事柄の定着を強く意識して、普段の授業展開を進めていく。また長期休暇中の課題において、そのような機会を持たせる取り組みを取り入れていく。	
3年	全29問中13問で、校内正答率が目標値を10ポイント以上下回っている。ただし調査実施時に歴史的分野に未習であった内容が含まれている。そこを分けて考えると、地理・歴史各分野にまんべんなく定着度の低い問題が分散している。一方で目標値を上回る問題も8問ある。日常の授業ではグループ学習を取り入れ、主体的な学びや協働的な学習の習慣化に努めているものの、めだった成果につながっていない。一方で3年次になってから、学習意欲の高まりが顕著になっている。とはいえ、社会的事象の学習への意欲・関心を高めることが最も重要であると考え。	公民的分野の学習では社会的事象を身近に捉えさせる授業展開を意識する。公民的分野は身近な社会の制度や構造を学習する。教材研究や授業展開の方向性の工夫によって、社会的事象の具体的事例の例示を工夫することで、興味・関心を高めていく学習を意識しながら取り組んでいく。また年度末に中学校3年間の総まとめの学習を実施し、知識・理解の定着の確認と思考・表現の訓練を行っていく。	第一に、スパイラル学習を取り入れる。さまざまな到達度の水準の生徒がいるが、主に中学校で既習内容の基礎・基本の定着を意識して取り組んでいく。第二に、表現活動を重視した指導を展開する。年間の授業を通じて、小論文を作成させたり、思考を表現し情報交換し合う学習活動を展開することを通じて、表現力を高めていく。	

東京都北区立堀船中学校			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	習熟度別であるため、基礎講座では基礎基本の定着を第一としているが、その定着も繰り返しの回数の少なさで定着率が下がっていること。複雑な思考が必要な問題の場合、焦点がずれて、何を聞いているか、何を考えれば良いのかわからないことになってしまう。問題を解決するために、そのような力が働き、それを養うには何が必要であるか、十分な計画を必要である。	目標値より高い項目の割合が比較的多いことが特徴であるが、類型外誤答の多さも気になる。特に、問5にあるような文字式で表現されるものが何を表しているかといった式の意味を問う問題では、設問を読み解く際に絵や図にして考えるなど、補助的な学習に注力する必要がある。また、問18にある比例の関係を文字式で表すことや比の概念を育てる数学的素地を養う学習に力を入れたい。さらに大問20のような場合の数では、順列なのか組み合わせなのかを区別して指導することに樹形図を効果的に導入し数学的意味の理解につなげたい。	・問題演習に取り組む時間を計画的に増やし基礎基本の定着を図る。基礎・基本コースではパワーアップの先生と連携して、つまづいている生徒への個別指導を実施する。 ・単元テストでは単元終了時に実施する。また、自分の間違いをすぐに振り返ることができるように振り返りシートの作成を促す。間違えた問題のやり直しを徹底する習慣づけを行うことで、つまづきをなくす指導をする。また個別指導を要する生徒の補充学習を実施する。 ・問題集・ノートでは一人で取り組むのが困難な生徒に対するアドバイスを適切におこなう。
2年	正の数・負の数の単元における「絶対値」の内容が、目標値に6.1ポイント届かなかった。絶対値の定義の確認ができていないと考える。また、平面図形の単元における「垂直二等分線を作図してできた中点と頂点を結ぶ線が面積を二等分する」の内容が、目標値に21.9ポイント届いていない。授業で垂直二等分線の書き方を重点的に指導したことで、概念の理解に及んでいないと考える。	単に「やり方」を教えるのではなく、「なぜそうなるのか」「何のためにやるのか」という概念の理解に重点を置く。特に、習熟度別の基礎クラスでは、視覚的な要素、実生活との関連付け、そして生徒自身の発見を促す活動を取り入れる。例えば、身近なものを二等分したり、実際に辺の中点を見つけて（折り目で示すなど）、そこから向かいの頂点へ線を引いて切らせる。最後に概念と作図を結びつけられるように発問し、指導する。	絶対値の定義を完全に定着させ、数の大小比較や方程式・不等式といった応用問題に対応できる力を養う。口頭での説明と概念図の利用、数直線上の移動ゲーム、絶対値記号を外して比較する練習とステップを踏み、絶対値方程式・不等式といったの高校の内容につなげる。
3年	学力調査の結果、区の目標値を基礎で+5.4、活用で+6.3上回った。習熟度別指導において、基礎クラスでは単項式の乗除の計算」は大きく上回り基礎技能の定着が見られた。一方、「三角形の合同証明」では大きく下回り、合同条件の理解や証明を順序立てて進める力に課題がある。「何を問われ、何を考えるか」を課題とした問題が不明確になる傾向が見られる。	基礎力の定着として、1・2年内容を含む基礎問題を定期的に復習し、家庭学習もスモールステップで計画的に進める。思考力・表現力の育成として、図形証明や確率の誤答傾向を踏まえ、図や公式を活用しながら理解を深める。日常場面に即した課題や生徒同士の説明活動で「自分ごと」として考えさせる。学習環境の工夫として、ICTを活用して興味を引き、振り返りテストで理解度を確認。結果に応じて指導を改善する。	補充指導として基礎計算力の定着を重視し、授業の導入で既習事項を確認する。特に1・2年内容を振り返りながら反復練習を行い、理解を深める。学習内容を生活場面と関連付けることで数学の有用性を実感させ、習熟が不十分な生徒には放課後補充で個別支援を行う。 発展指導として、高校数学への接続を意識し、発展的課題や未解決問題に取り組ませる。各単元のまとめではレポートを作成し、解法や応用を整理させる。さらに、生徒同士の説明・議論を通して、条件把握から振り返りまでの思考プロセスを繰り返し、思考力・判断力・表現力を育成する。

東京都北区立堀船中学校			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	生徒たちの反応を見ていると、小学校の頃にあまり理科の授業を楽しみ、面白いと感じることが少なかった様子である。まずは、興味関心が高まるような授業展開が必要不可欠である。また、理科にあまり良いイメージをもっていない生徒も多く見受けられる。その要因は、やってもできない、わからないと言った苦手意識から起因している。理科を身近に感じる工夫を多く行うことが足りていなかったと考えられる。	授業の導入時には、前時までに学んだことを口頭で確認し、つながりを意識させることに重点を置く。また、本時の目標を明確にし、何を学ぶのかの方向性を意識させ、授業に取り組むようにする。 実験をなるべく多く取り入れ、生徒が実感の伴った理解につながる工夫を行う。また、今年度は協働的な学びとして、話し合い活動を充実させ、自身の理解を言語化させる活動を増やしている。特に実験後は考察を個人、班と時間を分けて行い、自分の考えを言語化し、また、他者と学び合う訓練を多く取り入れる。	実験をより多く行う中で、実験を段階ごとに分けて、学びを意識するように補助する。具体的には、実験を行う目的について説明を受け、仮説予想を自分で考えた後、全体で共有する。実験に際しても、どのような方法で行うと適切なのか発想し、安全に気をつけて実験を行う。その後、結果を全体で共有し、目的を再度意識して考察を行い、自分の意見を班員と協働作業により深める。 ホワイトボードや、ICT機器を積極的に活用し、より自分の考えを外化できる支援を行う。
2年	・観察・実験に対しては興味を示す生徒が多いが、観察・実験の結果からどんなことが説明できるのかを、科学的に考えられる生徒や、自分の考えをまとめ、他の生徒に理解させられるように表現できる生徒も少ない。 ・基本的な科学用語に対して短いスパンでは理解し覚えているが、長いスパンで考えると定着していない生徒が多い。 ・自信を持って発言する生徒もいるが、受け身の状態で授業を受ける生徒が多い。	・観察・実験を積極的に行い、観察・実験結果からどのようなことが導き出せるか、自身の言葉で表現しやすいようにワークシートを工夫する。 ・班活動を通して、個人の意見を発表しやすい環境を作り、発表に対しての抵抗感を低くする工夫をする。	・観察・実験の考察を、班内で生徒それぞれが発表し協議して、自分の疑問や訂正等を行い、最適な解答を導き出せるように工夫していく。
3年	昨年度の反省を見ると、既習事項をもとに、新たな授業内容を理解することが多いが、前時の内容を忘れてしまっていることが多く、前時との知識の連動性があまり図れていなかったようすである。また、生徒同士の話し合い活動も不十分で、生徒が自身の学びを振り返る時間をあまり取ることができなかったようだ。特に、生徒に学んだことを言語化し、発表させる場を設定しても、何を書いているのか、話せばいいのかわからないという生徒が多く見受けられる。	授業の導入時には、前時までに学んだことを口頭で確認し、つながりを意識させることに重点を置く。また、本時の目標を明確にし、何を学ぶのかの方向性を意識させ、授業に取り組むようにする。 実験をなるべく多く取り入れ、生徒が実感の伴った理解につながる工夫を行う。また、今年度は協働的な学びとして、話し合い活動を充実させ、自身の理解を言語化させる活動を増やしている。特に実験後は考察を個人、班と時間を分けて行い、自分の考えを言語化し、また、他者と学び合う訓練を多く取り入れる。	実験をより多く行う中で、実験を段階ごとに分けて、学びを意識するように補助する。具体的には、実験を行う目的について説明を受け、仮説予想を自分で考えた後、全体で共有する。実験に際しても、どのような方法で行うと適切なのか発想し、安全に気をつけて実験を行う。その後、結果を全体で共有し、目的を再度意識して考察を行い、自分の意見を班員と協働作業により深める。 ホワイトボードや、ICT機器を積極的に活用し、より自分の考えを外化できる支援を行う。

[様式3]指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）東京都北区立堀船中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	コミュニケーション活動が得意な生徒が多く、小学校からの積み重ねを実感できる。一方、文法や単語の学習が苦手な生徒も見受けられる。既習内容の反復練習や自己表現に用いる機会を増やす必要がある。	コミュニケーション活動に積極的に取り組む力をつけるために、ALTの授業やICTを活用した授業で興味・関心を持てる機会を増やす。同時に既習の文法事項を繰り返し練習し、実際に使える力を育成する。また単語テストや単元テストを行い、学習の状況を把握し、復習や復習に生かす。生徒が得意な活動も引き続き行い、生徒の達成感を高めていく。	授業でのワークシート、単語テスト、単元テストなどを参考にして定着の度合いを確認し、繰り返し練習させる。毎回の自己評価シートで生徒自身が自分の学習の状況を自覚し、次への課題を見つけられるように働きかける。
2年	リスニングは引き続き、様々な対話文や説明文等を聞き取る活動を行い、リスニング力を養わせる。「書くこと」の正答率が目標値よりは上回っているが、区の平均正答率よりわずかに下回っているので、リスニングや長文共に所見の問題に触れる機会をさらに増やす必要がある。対話分の応答と語形、語法の知識・理解と情報に基づいて英作文を書ける力をつける。	・ALTとの授業を通してコミュニケーション活動を行うことで、リスニング力やスピーキング力をさらに伸ばせるようにする。 ・教科書の内容に関連した内容で、生徒の興味・関心を引き出せるような文章を読む機会を作り、初見の文章でも内容を理解できる力を身につけさせる。 ・発表活動での原稿作りや手紙・メールを書く活動等を通してライティング力を身につけさせる。	・授業でのワークシート、単語テスト、単元テスト等を参考にし、生徒の進度や定着の程度を確認し、理解度が低い部分を補う指導をする。 ・発表活動や英作文を書く活動等を通して既習の内容を活用できるアウトプットの機会を作る。
3年	英作文を読み取り、内容にあった語句を使って答える問題に課題がある。初見の英作文を各自読む時間を毎回取り、簡単な問題に答える練習を授業で行っていきたい。また、様々な英文に慣れて、正確に内容把握ができ、要約して説明できるように教科書の中でも取り組ませていきたい。	3文以上の英作文の問題で、自分の考えや意見をまとめた理由や説明で相手に伝わるように書く機会を授業でも取り入れていきたい。授業開始の質疑応答でも必ず自分の意見を言う機会を設けて、即興で会話できるように授業で取り組ませていきたい。	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書く事について課題が見られる。ALTとの授業でも自分の意見を言える機会を増やし、その理由についても相手に伝わるように説明できるように授業で多くのトピックで話をさせていきたい。